

# ぐるっと音楽紀行

フランス・パリ

旅するピアニスト

赤松林太郎

♪ 3



日本の街中からもクリスマスの音が聞こえてきました。「アドベント」はキリストの誕生を待ち望む期間ですが、サンタクロースからのプレゼントを待つ子どもと同じように、大人にとっても心躍る季節。夜はシングルベルの歌がこだまするクリスマスマーケットに出掛け、シナモンと果物の甘い香りが立ちこめる広場でホットワインやクリスマス料理を味わい、木組みの小屋に並ぶプレゼントや飾りを買って求めるだけで、すっかり物語の住人です。

私が初めてヨーロッパの地を踏んだのが2000年、ドイツ・デュッセルドルフでのコンクールでした（第1話）。この年のアドベント期間中はオーストリアのウィーンから旅行を始め、再びデュッセルドルフ、そしてライン川沿いのケルンやボンなど、ドイツらしい小都市をいくつも回りました。ドイツは森の国ですから、クリスマスツリーには事欠きません。

## 若者に魔法をかける街

「おお、モミの木  
れたドイツ民謡。  
クリスマスツリー  
ツトウヒは、ドイ  
森」（シユヴァル  
生み出しており、  
に抜けるとフラン  
フランスへの近  
ドルフからの超特  
（タリス）。旅情  
れる鈍行列車も良  
時速が300キロに  
快そのもの。日本

よ」はよく知ら  
モミの木と共に  
に使われるドイ  
ツ特有の「黒い  
ツヴァルト）を  
その黒い森を西  
スです。

道はデュッセル  
急THALYS  
を満喫させてく  
いですが、最高  
及ぶタリスは爽  
の新幹線と同じ  
くらの速度でヨーロッパを東西  
に突っ走る快感を、ナポレオンな  
らどれほど狂喜したことでしょう。  
20年前のタリスはドイツ・ケ  
ルンが東の玄関口。ベルギー領に  
入り、リエージュ、ブリュッセル  
に至るまでには車内放送もフラン  
ス語に変わり、3時間ほどでフラ  
ンス・パリ北駅に到着します。

12月23日は私のパリ記念日。イ  
ルミネーションがまぶしいシャン  
ゼリゼ大通りに立った時、コンコ  
ルド広場で回る観覧車が夢を実現  
してくれるように錯覚して、私は  
一瞬にして魔法にかかってしま  
ました。パリは若者に幻想を見さ  
せる力を持っています。ピカソも、  
モディリアニも、藤田嗣治も、パ  
リをこうこうと照らす光が何かを  
かなえてくれる灯に感じられたに  
ちがいありません。

観光するだけのつもりだったパ  
リで、私が最初にすることは憧れ  
のピアニストにファクスを送るこ  
とでした。宛先は「マダム・リス  
ト」と称された生きる伝説、フラ  
ンス・クリダ先生。女性初のリス  
ト全曲録音で知られるリスト弾き  
の大家ですが、生前のリスト本人  
がそうだったように心が広く、フ  
ァクス送信から数日後、名もなき  
日本人青年を自宅に温かく迎え入  
れたのです。

結局4年半をこの街で過ごすこ  
とになりましたが、クリダ先生の  
もとで触れた多くの神秘が、私を  
今日まで音楽家の道に導き続けて  
くれました。永遠のパリ。

◇第2月曜に掲載します。



あかまつ・りんたろう 1978年、大分県生まれ。2歳から神戸で育つ。兵庫高、神戸大発達科学部卒。パリ・エコール・ノルマル音楽院高等演奏家資格首席取得。2007年に帰国し、国内外で活動。洗足学園音楽大客員教授、大阪音楽大特任准教授。神戸市在住。

